渋沢栄一年譜

西暦	和暦	年齢	主なできごと
1840年	天保11年	0	2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市）に市郎右衛門、えいの子として生まれる
1858年	安政5年	18	尾高惇忠の妹ちよと結婚
1861年	文久元年	21	江戸の海保塾や千葉道場で文武の道を学び、天下の志士と交わる
1863年	文久3年	23	高崎城乗っ取りや横浜の外国人商館の焼き討ちを計画するが、尾高長七郎（惇忠の弟）の説得により中止。渋沢喜作と共に京都にのぼる
1864年	元治1年	24	平岡円四郎のはからいで喜作とともに一橋家に仕官する
1867年	慶応3年	27	将軍徳川慶喜の弟・昭武に従いフランスのパリ万博などを視察する
1868年	明治1年	28	フランスより帰国。静岡藩に仕える
1869年	明治2年	29	静岡藩に「商法会所」を設立。明治新政府に仕官。租税正となる
1873年	明治6年	33	大蔵省を辞任し、第一国立銀行総監役となる わが国最初の洋紙製造会社（抄紙会社）の創立を指導、運営。
1876年	明治9年	36	東京養育院の事務長となる
1878年	明治11年	38	東京商法会議所（後の東京商工会→東京商業会議所）の会頭となる（～明治３８年まで）
1879年	明治12年	39	前アメリカ大統領グラント将軍の歓迎会を行う
1882年	明治15年	42	妻ちよ死去
1883年	明治16年	43	伊藤兼子を妻に迎える
1885年	明治18年	45	東京府からの廃止の動きに対し、東京養育院の存続に努力する
1896年	明治29年	56	第一国立銀行が株式会社第一銀行となり、その頭取となる
1897年	明治30年	57	澁澤倉庫部開業。十勝開墾合資会社設立。
1900年	明治33年	60	男爵を授けられる
1901年	明治34年	61	日本女子大学校開校（後に校長となる）
1902年	明治35年	62	アメリカ及びヨーロッパ諸国を夫人と共に訪問し、国際親善に努める
1909年	明治42年	69	古稀を機に多くの役員を辞任
1914年	大正3年	74	日中経済のより緊密な関係を築くため、中国を視察し親善に努める
1915年	大正4年	75	パナマ運河開通記念博覧会を見学し日米親善に努める
1916年	大正5年	76	喜寿を機に引退し社会公共事業に尽力する。「論語と算盤」を刊行する
1920年	大正9年	80	子爵を授けられる
1921年	大正10年	81	ワシントン軍縮会議の視察のため渡米し平和外交を促進する
1923年	大正12年	83	関東大震災。大震災善後会副会長となり、復興に尽力する
1926年	大正15年	86	寄付金募集に尽力した埼玉会館が竣工。開館式に出席する 松平定信(楽翁)伝記編纂に携わる
1927年	昭和2年	87	日本国際児童親善会を創立し、会長として「青い目の人形」事業に尽力する
1929年	昭和4年	89	宮中に参内、御陪食の光栄に浴する
1930年	昭和5年	90	救護法の実施について政府に働きかける
1931年	昭和6年	91	11月11日午前１時５０分永眠

2021年	令和3年	ー	ＮＨＫ大河ドラマ「青天を衝け」が放映される
2024年	令和6年	—	7月3日、肖像が使用された新一万円札が発行される